清流大川

羽地中学校
学校だより 64 号
せいりゅうおおかわ
H30. 7. 11

羽地中校区地域懇談会

稲田小校区の場合

羽地中校区地域懇談会が5日（木）、各区公民館などで開催されました。

稲田小学校体育館では、四区が合同で開催されました。稲田小学校の宮里教諭、羽地中学校の新城教諭が児童生徒の学力調査の状況や生活アンケートの結果と考察などを発表しました。その後、三つのグループに分かれて、家庭学習やスマホの取り扱い、夏休みの区の行事などについて情報交換や懇談を進めました。

スマホについて懇談したグループの発表では、小中学生のスマホの所持率が高いことから、ネット上で友達が増えて、トラブルも増えてきているとのこと。また、LINEなどを夜遅くまでやっていて、朝、遅刻したり既読のありなしでトラブルも見られる事が報告されました。

家庭での約束事を守る取り組みや授業参観などで、保護者向けスマホトラブル防止のための講演会開催などの提案がありました。

家庭学習について話し合いをしたグループでは、部活前に宿題をこなしている子と部活後に宿題をやっている場合に分けられるが、後でやる場合は疲れてできない場合もあり、声かけが必要とのこと。稲田小学校では、家庭学習に関わっている家庭が多いので、宿題の出し方に工夫が必要と発表していました。

区長さんや地域の方々のグループでは、中学生だけで海で泳いでる場所、雨天時の農業用水は水かさが増えてあぶない事、などの情報や小学生の自転車ヘルメットの着用を声かけしてはどうかの提案や公民館で卓球やバスケするときのマナーやあいさつ、片付けなどの指導、不審者情報を公民館でも共有したいので連絡してほしいなどの要望もありました。ハブも3・4件の捕獲があったので注意してほしい、学校や公民館に知らせてほしいなどもありました。

もうすぐ夏休み。命を守る行動を実践したい。皆さんお疲れ様でした。

なぜ、少年院で人生がかわるのか？

4日（水）、宜野座村のがらまんホールで武藤杜夫さんの講演会を聞きに行きました。演題は「なぜ、少年院で人生が変わるのか？」。

武藤さんは、東京都出身で元沖縄少年院の法務教官。自身も中学校時代はほとんど教室に入らず、違反制服で反抗し、3年間の成績はオール1、同級生にも心を開けず、自分が嫌でたまらなかったそうだ。

中学卒業後、一浪して高校に入ったものの、教室になじめず山・川で時間を過ごす。高三のころ、三線と出会い、卒業と同時にヒッチハイクして、沖縄県竹富島を訪れる。竹富島で水牛車を引く仕事と人との出会いで「自分が認められた」ことをきっかけに生き方を変え、何か自分で貢献できることはないか考えていた。〈つづく〉